

過去1年間の振り返りと当面の見通し

米国ネクストビジョンファンド
(為替ヘッジあり)/(為替ヘッジなし)
追加型投信/海外/株式

▶ 本レポートでは、当ファンドが投資している「JPモルガン・ファンズーUSテクノロジー・ファンド」(以下投資先ファンド)の過去1年間における局面ごとのマーケット環境、今後の見通しについてご紹介いたします。

過去1年間の投資環境

局面① 2022年10月～2023年7月

2022年に軟調だった米国株式市場は、2023年に入り7月まで、想定よりも強い米国経済や企業業績を背景に、上昇基調に転じました。(図表1)

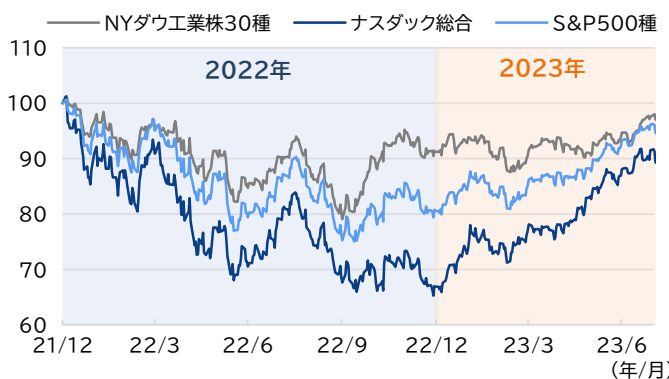
特に、2022年に大幅な下落を経験したテクノロジーセクターについては、インフレ率の低下による利上げ打ち止め期待に加え、テクノロジー需要の回復、AI(人工知能)を起爆剤とする成長期待などが追い風となり、力強く推移しました。テクノロジー企業の構成比率が高いナスダック総合指数は、S&P500種指数やNYダウ工業株30種指数と比較し、大幅な上昇を見せました。

投資先ファンドでは、AIチップ(AIの演算処理を高速化させるための半導体)の需要が高まる中で高い競争力を維持できると判断したエヌビディアを、2023年1月以降、半導体セクターの中で最も多く組入れておりました*。株価上昇もあり、7月末時点では4.7%の組入比率でした。(図表2)

また、インスタグラムなどのプラットフォームを通じてAIへの投資を収益化できる点で競争優位性があると判断したメタ・プラットフォームズは、2023年年初、株価が下落していた局面を好機と捉え積極的に買い増しをしましたが、良好な企業業績を背景とした株価の上昇により、ファンドのパフォーマンスに寄与しました。

図表1 主要米国株指数の推移

(期間 2021年12月31日～2023年7月31日、日次)



※2021年12月31日を100として指数化

(出所)Bloombergのデータを基にSBI岡三アセットマネジメント作成

図表2 2023年7月時点の組入上位10銘柄

銘柄名	業種	比率
1 メタ・プラットフォームズ	インターネット	5.7%
2 エヌビディア	半導体	4.7%
3 テスラ	ハードウェア	4.4%
4 アルファベット	インターネット	3.5%
5 オラクル	ソフトウェア	3.3%
6 シノプシス	ソフトウェア	3.3%
7 ネットフリックス	インターネット	3.1%
8 アドバンスド・マイクロ・デバイセズ(AMD)	半導体	2.8%
9 アドビ	ソフトウェア	2.7%
10 モンゴDB	ソフトウェア	2.7%

※比率は、投資先ファンドのポートフォリオに対する割合です。

※業種は、J.P.モルガン・アセット・マネジメント独自の分類です。

(出所)J.P.モルガン・アセット・マネジメントのデータを基にSBI岡三アセットマネジメント作成

* 各月末時点ベース

本資料では「米国ネクストビジョンファンド(為替ヘッジあり)」「米国ネクストビジョンファンド(為替ヘッジなし)」を総称して「当ファンド」といいます。投資先ファンドはルクセンブルグ籍外国投資法人「JPモルガン・ファンズーUSテクノロジー・ファンド」(外国籍、日本での取扱いはありません。)であり、当ファンドはそのシェアクラスである「JPモルガン・ファンズーUSテクノロジー・ファンド(1クラス)(円建て、円ヘッジ)」「JPモルガン・ファンズーUSテクノロジー・ファンド(1クラス)(円建て)」に投資します。

<本資料に関してご留意いただきたい事項>

■本資料は、当ファンドに関する情報提供を目的としてSBI岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、ファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成日時時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その情報の正確性・完全性を保証するものではありません。■購入の申込みに当たっては、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。

局面② 2023年8月～2023年10月

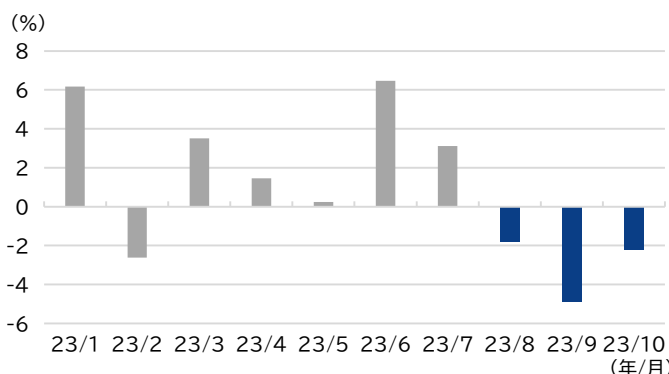
一方、2023年8月に入ると、金融引き締め長期化への不安が高まり、またその後は米国金利の高止まりや原油高などが嫌気され、9月のS&P500種指数は月間で2023年最大の下落率を記録しました。

特に前半に株式市場を牽引した大型テクノロジー株式が苦戦しました。足元にかけては、個別企業の決算が発表される中、経済やインフレの動向をにらみ一進一退の状況が続いています。

投資先ファンドでは、市場予想を下回る決算内容であったネットフリックスや、今後の金利と経済の先行き不安が重石となったシヨップファイなどの保有がマイナスに影響しました。

図表3 S&P500種指数の月間騰落率推移

(期間 2023年1月～2023年10月、月次)



図表4 2023年9月時点の組入上位10銘柄

銘柄名	業種	比率
1 メタ・プラットフォームズ	インターネット	5.9%
2 テスラ	ハードウェア	4.5%
3 アルファベット	インターネット	4.1%
4 エヌビディア	半導体	3.8%
5 シノプシス	ソフトウェア	3.7%
6 オラクル	ソフトウェア	3.3%
7 アマゾン・ドット・コム	インターネット	3.2%
8 アドビ	ソフトウェア	2.8%
9 アドバンスト・マイクロ・デバイセズ(AMD)	半導体	2.8%
10 ワークデイ	ソフトウェア	2.6%

※比率は、投資先ファンドのポートフォリオに対する割合です。
※業種は、J.P.モルガン・アセット・マネジメント独自の分類です。

(出所)J.P.モルガン・アセット・マネジメントのデータを基にSBI岡三アセットマネジメント作成

今後の株式市場の見通し

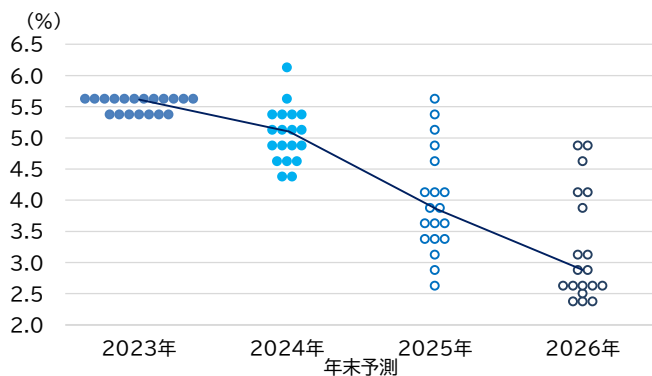
米国株式市場

足元の米国株式市場では、米景気のソフトランディング期待と高い金利水準の長期化懸念が共存しており、ここまでの金融引き締めが家計と企業の経済活動に与えるリスクと、インフレの鎮静化で利下げ環境が整う期待感の綱引きが、今後も続くことが想定されます。

短期的には高い政策金利が株式市場全体にとって逆風となる可能性があるものの、**中期的には、金利上昇サイクルは終盤に差し掛かっている**と考えています。

また、堅調な個人消費、インフレ抑制法やCHIPS法(米国内での半導体の開発・量産を支援する法案)に伴う政府の財政支出などから、今後の米国景気には明るい見通しをもっています。

図表5 米連邦公開市場委員会(FOMC)メンバーによる政策金利見通し(ドット・チャート)の推移



※2023年9月20日時点でFOMCメンバーが適切と考える各年末のFF金利誘導目標水準。
折れ線はFOMCドットチャート中央値。

(図表3、5の出所)Bloombergのデータを基にSBI岡三アセットマネジメント作成

<本資料に関してご留意いただきたい事項>

■本資料は、当ファンドに関する情報提供を目的としてSBI岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、ファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成日時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その情報の正確性・完全性を保証するものではありません。■購入の申込みに応じた場合は、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。

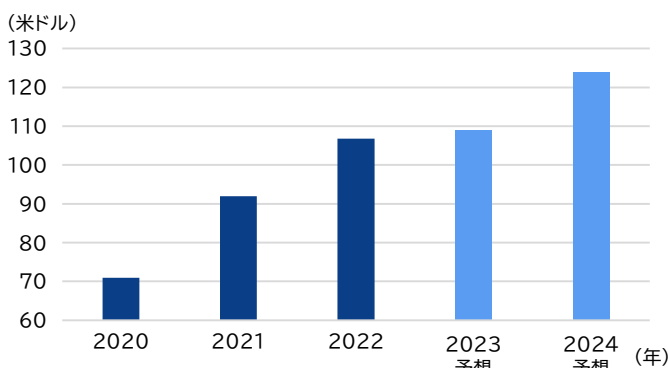
テクノロジーセクター

一方で、テクノロジー市場については、AIの実用化などイノベーション(技術革新)がもたらすインパクトが広範な産業に及び、景気サイクルの枠を超えた息の長い成長トレンドが形作られると期待されます。

足元では、テクノロジーセクターの銘柄間でも格差が広がっており、アクティブ運用による個別銘柄選択がより一層重要になっていると考えています。今後も私たちの生活や未来を変える可能性のある革新的な企業の発掘・調査を続け、運用チーム全体でポートフォリオの運用に尽力していく所存です。

図表6 テクノロジーセクターのEPS(1株当たり純利益)推移

(期間 2020年~2024年、年次、予想を含む)



※セクターはGICS(世界産業分類基準)ベース
※予想は2023年11月10日時点

(出所) Bloombergのデータを基にSBI岡三アセットマネジメント作成

運用状況 (作成基準日: 2023年11月8日)

<為替ヘッジあり> 基準価額の推移

(2021年10月25日~2023年11月8日、日次)



※上記のグラフの基準価額は1万円当たり、信託報酬控除後です。

ファンドデータ	
基準価額	7,224円
残存元本	6,249百万円
純資産総額	4,514百万円
ポートフォリオ構成比率	
JPモルガン・ファンズーUSテクノロジー・ファンド (Iクラス) (円建て、円ヘッジ)	98.0%
マネー・リクイディティ・マザーファンド	0.2%
短期金融商品その他	1.8%

※小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100にならない場合があります。

<為替ヘッジなし> 基準価額の推移

(2021年10月25日~2023年11月8日、日次)



※上記のグラフの基準価額は1万円当たり、信託報酬控除後です。

ファンドデータ	
基準価額	10,426円
残存元本	54,879百万円
純資産総額	57,219百万円
ポートフォリオ構成比率	
JPモルガン・ファンズーUSテクノロジー・ファンド (Iクラス) (円建て)	98.1%
マネー・リクイディティ・マザーファンド	0.2%
短期金融商品その他	1.7%

※小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100にならない場合があります。

※11月8日の基準価額には、米国現地で7日までの動きが反映されています。なお、投資先ファンドは取引時間中の価格で評価を行っているため、引値ベースの動きとは異なる点にご留意ください。

J.P.モルガン・アセット・マネジメントは、JPモルガン・チェース・アンド・カンパニーおよび世界の関連会社の資産運用ビジネスのブランドです。

<本資料に関してご留意いただきたい事項>

■本資料は、当ファンドに関する情報提供を目的としてSBI岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、ファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成日時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その情報の正確性・完全性を保証するものではありません。■購入の申込みにあたっては、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。

米国ネクストビジョンファンドに関する留意事項

【SBI岡三アセットマネジメントについて】

商号:SBI岡三アセットマネジメント株式会社

SBI岡三アセットマネジメント株式会社は、金融商品取引業者として投資運用業、投資助言・代理業および第二種金融商品取引業を営んでいます。登録番号は、関東財務局長(金商)第370号で、一般社団法人投資信託協会および一般社団法人日本投資顧問業協会に加入しています。

【投資リスク】

- 投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。投資信託は預貯金と異なります。投資信託財産に生じた利益及び損失は、すべて投資者の皆さまに帰属します。ファンドは、米国の株式等値動きのある有価証券等に投資しますので、組入れた有価証券等の価格の下落等の影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資しますので、為替相場の変動により損失を被ることがあります。
- ファンドの主な基準価額の変動要因としては、各ファンド共通のリスクとして「株価変動リスク」、「信用リスク」、その他の変動要因としては、「カントリーリスク」、各ファンド個別のリスクとしては、「為替変動リスク」があります。

※ 基準価額の変動要因は上記のリスクに限定されるものではありません。

【その他の留意点】

- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリングオフ)の適用はありません。
 - 投資信託は預金商品や保険商品ではなく、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関が取り扱う投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。
 - ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要がある場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金申込の受付が中止となる可能性、換金代金の支払が遅延する可能性があります。
 - 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合があるため、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。また、投資者の購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり率が小さかった場合も同様です。
 - 投資対象とする投資信託証券にかかる購入・換金申込の受付の中止および取消、取引所における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金申込の受付を中止することや、すでに受付けた購入・換金申込の受付を取消することがあります。
- 詳しくは、「投資信託説明書(交付目論見書)」の「投資リスク」をご参照ください。

【お客様にご負担いただく費用】

<お客様が直接的に負担する費用>

- 購入時
 - 購入時手数料 : 購入金額(購入価額×購入口数)×上限3.3%(税抜3.0%)
詳しくは販売会社にご確認ください。
- 換金時
 - 換金手数料 : ありません。
 - 信託財産留保額 : ありません。

<お客様が信託財産で間接的に負担する費用>

- 保有期間中
 - 運用管理費用(信託報酬)
 - : 純資産総額×年率1.298%(税抜1.18%)
 - 運用管理費用(信託報酬)の実質的な負担
 - : 純資産総額×年率1.948%程度
 実質的な負担とは、ファンドが投資対象とする投資信託証券の信託報酬を含めた報酬です。なお、実質的な運用管理費用(信託報酬)は目安であり、投資信託証券の実際の組入比率により変動します。
- その他費用・手数料
 - 監査費用 : 純資産総額×年率0.0132%(税抜0.012%)
- 有価証券等の売買に係る売買委託手数料、投資信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、海外における資産の保管等に要する費用等を投資信託財産でご負担いただきます。また、投資対象とする投資信託証券に係る前記の費用等を間接的にご負担いただきます。(監査費用を除くその他費用・手数料は、運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことはできません。)

● お客様にご負担いただく費用につきましては、運用状況等により変動する費用があることから、事前に合計金額もしくはその上限額またはこれらの計算方法を示すことはできません。

● 詳しくは、「投資信託説明書(交付目論見書)」の「手続・手数料等」をご参照ください。

販売会社一覧

受益権の募集の取扱い、投資信託説明書(交付目論見書)、投資信託説明書(請求目論見書)及び運用報告書の交付の取扱い、解約請求の受付、買取請求の受付・実行、収益分配金、償還金及び解約金の支払事務等を行います。
 なお、販売会社には取次販売会社が含まれる場合があります。

(2023年11月14日現在)

商号	登録番号	加入協会			
		日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
(金融商品取引業者)					
岡三証券株式会社	関東財務局長(金商)第53号	○	○	○	○
岡三にいがた証券株式会社	関東財務局長(金商)第169号	○			
阿波証券株式会社	四国財務局長(金商)第1号	○			
三縁証券株式会社	東海財務局長(金商)第22号	○			
株式会社証券ジャパン	関東財務局長(金商)第170号	○	○		
愛媛証券株式会社	四国財務局長(金商)第2号	○			
三晃証券株式会社	関東財務局長(金商)第72号	○			
野畑証券株式会社	東海財務局長(金商)第18号	○			○
武甲証券株式会社	関東財務局長(金商)第154号	○			

※岡三証券株式会社は、一般社団法人日本暗号資産取引業協会にも加入しております。

<本資料に関するお問い合わせ先>

フリーダイヤル 0120-048-214 (9:00~17:00 土・日・祝祭日・当社休業日を除く)